

短波ラジオ放送「ふるさとの風」  
加藤大臣メッセージ

今般、拉致問題担当大臣に就任しました加藤勝信です。

就任にあたり、北朝鮮に拉致され、長きにわたり、つらい日々を過ごされている被害者の皆様にメッセージをお伝えします。

北朝鮮による日本人拉致問題は、我が国の主権及び国民の生命と安全に関わる重大な問題です。そして、家族の時間を引き裂き、被害者それぞれの未来を奪う残酷な人権・人道上の問題でもあります。

安倍総理は、「拉致問題はこの安倍内閣において解決させる。被害者と御家族が抱き合う日が来るまで私の使命は終わらない。」と明言しています。全ての拉致被害者の一日も早い帰国を求めることは、日本国民の総意です。

私は、拉致問題を最優先・最重要課題と位置づける安倍政権の担当大臣として、「対話と圧力」「行動対行動」の基本姿勢を貫き、全ての拉致被害者が一日も早く帰国を果たし、再会を待ちわびる御家族と再び抱き合うことができるよう、日本政府一体となって全力で取り組んでまいります。

拉致問題の解決を含む、北朝鮮における人権状況の改善を求める声は、拉致被害者の母国のみに留まらず、国際社会共通の認識になってきました。

例えば、昨年2月、国連の調査委員会が北朝鮮の人権状況について、400ページ近く詳細に記述した報告書を公表しました。

報告書では、北朝鮮において行われている深刻な人権侵害を「人道に対する罪」に該当すると断じています。また、拉致被害者に関する情報提供と被害者本人及びその子を帰国させるよう勧告もなされています。

昨年12月の国連総会では、賛成116、反対20という圧倒的な多数で、北朝鮮の組織的かつ広範で深刻な人権侵害を非難する決議が採択されました。また、国連安全保障理事会では、「北朝鮮の状況」が初めて正式に議題として議論されました。

現在開催中の国連総会でも、11年連続となる北朝鮮の人権に関する決議が採択されることになると思います。このように、国連はじめ国際社会は、北朝鮮の人権状況について高い関心を持ち、被害者の皆さんの救出に向けた国際的な機運はこれまでになく高まっています。

北朝鮮は、世界の各国との融和を達成しようとするのであれば、人道的・大局的見地に立ち、拉致問題を始めとする人権問題の解決に向けた真剣かつ具体的な行動をとらねばなりません。

この場を借りて、北朝鮮に対しては、拉致問題の解決に向けた具体的な行動をとることを強く要請します。

最後になりますが、拉致被害者の皆様におかれましては、これから北朝鮮は冬を迎え、寒さも厳しくなると思いますが、決して日本への帰国をあきらめず、どうか健康にお気をつけてお過ごしください。日本政府は皆様の救出にあらゆる努力を尽くして参ります。

皆様が祖国の土を踏み、御家族と抱きしめ合う日が来るその時まで、我々も全力で頑張りますので、皆様も頑張ってください！